
緋弾のアリア イ・ウーの時の番人

sarutobi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋弾のアリア イ・ウーの時の番人

【NZコード】

N6627Z

【作者名】

sarutobi

【あらすじ】

緋弾のアリアの二次創作つい・イ・ウー側に主人公いる」とないよ
なと思い衝動書きしました。

元大学生が『Black cat』の時の番人の能力をもつて転生して 理子と出会いイ・ウーに入るそんな話
初投稿でしかも話自体かくの人生初めてなのでお手柔らかにお願いします。

1話（前書き）

馱文です。

ところで皆さんどうやって主人公の名前とか決めてるんですかね？

「…………んつ、…………あれ、…………だ」

辺りを見わたすとそこは天井も壁もない真っ白な空間

・・・・・・・・・と美人なお姉さんが土下座していた。

「えへ　なにこの状況・・・」

「！」あんなぞい！――」

田覚めていきなりいきなりそんなことを言われても反応に困るんだ
が・・・

「えつと・・・なにが？」

「え、えっと……あの……私がちょっと寝てたら……私の、よだれで……名簿が……」

まあ話を聞いたところみると、この美人のお姉さんは神様で、なんか俺達人間を管理してる名簿？

に書いてあつた俺の名前がよだれで消えちゃって、そのせいで俺はここにいるらしい。

俺弱っ！！ よだれってなんだよ……よだれって……

「んで、俺はこれからどうするんですか？」

「あれ、怒つてないんですね？」

「まあ、怒つてもなにもかわらないですし。」

それに元の世界にあんま未練ないしなあー
したいこと無いのにとりあえず大学いつて無駄な時間すごしてただ
けだし・・・

「そうですか・・・ありがとうございます。」

それで、貴方にほれから転生してもらいます。」

「えつ！ 転生つてあの転生ですか！？」

元の世界に戻れるんですか！？」

「いえ、申し訳ありませんが・・・それはできません。」

「貴方が転生するのは平行世界、いわゆる貴方の世界でこいつこの漫画やアニメの世界になります。

といつても私は位の低い神で、任せられている世界が一つしかないの

で転生する世界はきまつてゐるんですけど・・・」

「はあ・・・それって転生しないとかつてありますか？」

「いえ、それはダメですね（キッパリ）。
そうしないと私が上司に怒られるんで。」

「こつ・・・反省する気あるのか？

「もうですか・・・

で、どの世界になるんですか？」

「はー『緋彈のアリ亞』ところ世界になつます。」

いや、どこだよそれ
はあ～せっかく転生するんだつたら自分が知ってる世界がよかつた
な・・・

「『緋弾のアリア』？ ってどういう世界なんですか？」

「まあ 簡単にいえば、武僧という人達が銃とか刀とかでドンパチ
する世界ですね。あつ、あと超能力とかも。」

「オイッ！！ それって即死じゃねーか！！

こつちはだだの大学生だぞ！！

しかも超能力ってなんだ おかしいだろ！！

「それは流石に・・・俺には厳しいんじゃ・・・」

「あつ、それは大丈夫です。生き残れるように転生する前に貴方の
願いをいくつか叶えることになつてますから」

「あつ、でも余りにも世界観壊したり、凶悪すぎるのはダメですよ。

」

ふむ・・・それならなんとか生き残れるか

「じゃあ、『Black cat』の時の番人の全員の身体能力と特技、あと武器つてできますか？勿論トレンインの能力はレールガンつきで。」

「はい、できますけど・・・それだけですか？」

それだけって・・・俺の中では十分チートな能力を選んだつもりだつたんだが・・・じんだけ危険な世界なんだよ・・・

そのあと俺が追加で頼んだものは武器作成の能力と、大量のオリハルコン、武器などを気軽に運べる能力それと不老（不死じゃない）だつた。

「わかりました。それでは、すぐに転生できますけどどうしますか。

」

「え？、もうできるんですか！？」

「じゃあお願ひします。」

すると、田の前に現れた真っ黒な歪んだ空間から「0mはありつか」と「ワニ」が大きな口をあけながら出てきた

あー・・・やっぱ「これってあれだよね・・・

「え、えっと……これは？」

「ワニ型転生機テンテンくんです！口の中に入れば転生完了です。今日はいろいろ迷惑をおかけしてすみませんでした。では、中に入りください。」

やつぱりかー・・・てゆつか テンテンくんで・・・まつたぐ『くん』て顔してないんだが・・・

うわっ・・・じつちくんなーこないてくださいーこないでくれるとうれす・・・ギャアアアアアアア――――――――――

そうじて、俺の第二の人生が始まった

BAD END

「んっ・・・・ビリだ！」・・・

辺りを見渡すと、今度は森の中だった。それとあと置き手紙が一枚。

とりあえず俺はその手紙を手に取った。

『「」の手紙を見てるひとことは無事転生できたんですね。実はあの転生機5%くらいの確率で失敗して、時空の狭間に飛ばしてとじこめちゃうんですねー。

まあそれはおいといて、今貴方のいる場所は私にもわかりません。転生場所はランダムですから。本当は転生つていったら赤ちゃんから始まるというのが普通なのですが、今回はこちらの不手際でしたのでサービスで元の体のままにしておきました。

武器に関しては気軽に持ち運びたいということでしたので、お金と生活必需品とともに貴方の影の中に閉まっておきました。まあつまり影を使う超能力者つてところですねー。

説明は以上です。では第一の人生をお楽しみください。』

5%つて結構な確率じゃねえーか。失敗したらどうするつもりだつたんだ・・・?

まあ成功したからいいけど

それと武器か・・・俺の影の中にあるらしいけど・・・ とりあえず影の中に手を入れてみるか・・・

うおっ！－なんだこれ！－ ゆるゆるしてて気持ちわる！－

しかも底がどれだけあるか分からぬいくせに、意識したものを取り出せるし・・・

はあー・・・まじで漫画やアニメの世界なんだなこー。

そんなこんなで一週間たつた。

えっ！ 飛ばしそうだつて？ しかたねえだろ、一週間いろんな能力確認したり、影の中確認したり地味なことしかしてねーんだから。作者の技量なめんな！

てか、時の番人の力がハンパない。普通に銃弾で開けた穴に他の弾通せたり、自分の体ほどあるバズーカを軽々持ち上げたり、セフィリアの滅界とかヤバかった。まじで仏像できたんだけど・・・まあ次の日筋肉痛で死んだけど・・・

あとなんか性格が微妙に変わつてた。・・・戦闘狂ぼく・・・なんか自分の力を試してみたくてしようがない。

あつれー？前世では喧嘩もできないチキン野郎だったんだけどな・・・

・ クランツとバルドルの能力のせいかなと勝手に構想。

まあそんなこんなで一週間たつたわけだが・・・

今俺の田の前にまボロボロで氣絶してゐる金髪幼女がいる。

ビハーツたものか・・・マジで、ほんと・・・

Go to for the NEXT

1話（後書き）

読んでください。ありがとうございました。

設定（前書き）

作者はブラック キャットは漫画しか読んでないので この作品はアニメにでてきたナンバーズの武器はできません。

設定

名前 黒川 夕（くろかわゆう）

身長 178cm

体重 64kg

外見はぶつちやけ黒眼になつたトレイン。普段の装備は、装飾銃『ハーディス』と振动ナイフ『マルス』を腰に装備している。必要に応じて影から武器を取り出す。身体能力能力に関して言えばHSSにより上。

でも思考能力は劣る。

影に関しては物しかしまうことことができず、超能力としてのレベルが低いため常時能力を使っていても大丈夫という設定。

『特技』

変装

NO・?のシャオリーノの特技 セイレーンを使つことで顔だけではなく全身変装可能

『武器』

NO・? クライスト

形状：剣

ナンバーズのリーダー、セフィリアが使用

No. ? グングニル

形状：槍

ナンバーズの副リーダー、ベルゼーが使用

No. ? マルス

形状：ナイフ

戦闘狂のクランツが使用。

柄についたボタンを押すことで刃が超振動し切れ味が格段に上がる

No. ? ディオスクロイ

形状：トンファー

ナンバーズ奇襲暗殺チームケルベロスのメンバーであるナイザーが
使用。

No. ? エクセリオン

形状：鋼線仕込みグローブ

ナンバーズ奇襲暗殺チームケルベロスのメンバーであるジェノスが
使用。

No. ? ヘイムダル

形状：鎖付き鉄球

クランツ共々戦闘狂と言われるバルドルが使用。

鉄球に四つのブースターが装備しており、手元のスイッチを押すこ
とで自由に操作することができる。

No. ? セイレーン

形状：羽衣

魔術師の異名を持つシャオリーガ使用。
戦闘のみならず変装にも使用される等、オリハルコンシリーズの中で一番便利な武器。

N.O.・?/?ウルスラグナ

形状：バズーカ

ケルベロスのメンバー、ベルーガが使用。
三発しか装弾できない。

弾切れ後はハンマーとして使用できる。

N.O.・?/?ハーディス

形状：装飾銃

主人公トレンが使用する。

装弾数六発のリボルバー式

『技』

電磁銃レールガン ナノマシンによつて進化した細胞の細胞放電現象によつ

て銃弾を超高速で発射する。でも1日4発限定。あと使うと腹がへ

る。

黒爪ブラッククロウ

接近戦の技。ハーディスでの高速の打撃。

黒十字ブラッククロス

黒爪の攻撃を交差させて繰り出す技。

桜舞
おうぶ

達人でも会得するのに10年はかかると言われる無音移動術。花びらが舞うような動きで敵を翻弄する。

雷霆
らいてい

すっげー突き

滅界
めっかい

高速で突きを放つことにより、突きの壁をつくり食らった者は痛みも苦しみも感じず塵と化してしまう。でも反動が激しく次の日は筋肉痛でうごけない。

設定（後書き）

金一や理子が本来いつイ・ウー入りしたのか分からなくて困っています。

知っている人がいたら教えてください。

2話（前書き）

理子と言葉が通じるのは「都合主義」です。

s i d e ? ? ?

「・ハアハアツ・・ハア・・・・・・」

私は森の中を走っていた三日三晩ずっと、アイツから逃れるために・・・
こんなところでまたアイツに捕まるわけにはいかない・・・
まずは逃げなきや・・・そして力をつけよう・・・アイツを倒す
ために・・・ あそこに行けば力をつければはず・・・こんな・・・
落ちこぼれのわたしでも・・・

「あつ」 ドサツ

転んだことによって体中に衝撃がはしる。

それでも私はすぐに立ち上がるとする・・・でも体が思うように動
かない・・・
頭を強く打ったからだろうか、それとも 疲れがたまつてたからだ
ろうか・・・ 視界がどんどん暗くなつてくる・・・ 私・・・は・・
まだ・・・

立ち止まるわけにはいかないのに・・・・・・・・・・・

side out

side 黒川 タ

「おーい、だいじょーぶか?」

「・・・・・」

「返事がない、ただの屍のようだ・・・」

「・・・・・」

「・・・・・」

「やめよ!、しゃれこなうん・・・」

「とつあえず包帯でも巻ことくか・・・」

やつぱり俺は袖口でできた自分影の中に手を突っ込んで消毒液と包帯をとつだす。

ふう・・・まだ影の中はなれないな。まるで田んぼの中に手を入れてるみたいだ・・・昔はあるやんのとひりでやつたのが懐かしいぜ

「それにしても、こいつガリガリだな・・・服もボロボロだし・・・

」

それだけじゃない 体もボロボロ、 体中切り傷やあざだらけだ

まるで・・・誰から虐待でもつけたみたいに・・・・・・・

「まつ、俺が今考えてもしようがないか。

これ終わったらとしあえず近くの町につれていってみるか・・・

その後、応急措置を終えた俺は幼女を抱っこして町へと向かつて歩き出した。

「迷つた・・・」

どつも黒川 タです。

あれから一日たちました。

現在迷子です。

幼女もまだ目を覚ましません。

・・・どつしたものか

まあ転生してから一週間ろくに周囲を探索せず、武器いじったり変装の練習ばっかして野宿してたから当然つちや当然なんだけど・・・

「んつ？」

突然抱っこしてる両腕にかすかな揺れをかんじた。

おっ、田覓ますみたいだな。

「ん・・・。あれ・・・」は・・・

「おせよひさん、よく醒めたか？」

「う・・・」ゴシ

「こひー・っ」

「ゴイツいきなり顎殴つてきやがった・・・

「なにすんだ テメー！-」

「うるせーーーーー前誰だーーーーーの手下かーーーーー？」

幼女は殴ると同時に俺の手から抜け出し そして、いきなりわけからんことを叫び出した。

「ブリードつてだれだよ・・・

心の力つかつてグラビソンでも放つのか？

いや？微妙にちがつか？

まあこいや・・・

「いや 誰だよそこつ・・・」

「だまれっ！ 私はだまされなこぞつ・・・・・・いつつ・・・・・・」

「あーあーあーセつかく少し傷がふさがつてきたのに、そんな叫んだら傷が開いて余計ひどくなるぞ。
ショーガねーなー、とりあえず町こぐぞ。

ブリダツテやつの話もあんなところで傷だらけだった理由も一度町にいってからだ。それに腹も減つてんだる？」

そう言つて俺は歩き出す。いまだに警戒心MAXだが一応ついて来るので、どうやら町までいくのは賛成らしい。

はあー・・・面倒なことになりそうだなー

そういうことをつぶつと口にしている間に、

おこつ・・・

今ロリコソツて思つた奴だれだ！ 出で来い！

あれから一時間ほどたちました。

俺達はいまだ森の中にいます。

「お前、もしかして……」

「いうな
いわないでくれ——」

子供みたいに喚くおれに幼女の一言が突き刺さる。

「道も知らないくせしてあんなセリフはいたのか・・・?」

グアアア―――いわれた―――
恥ずかしすぎるううう―――

すっかり迷子なこと忘れてました。 てへつ

あれから更に1日だつてなんとか町を見つけて現在飯屋にいます。
(ちなみにも今俺達がいる国はルーマニアらしい)

そして目の前にはガツガツ気品のかけらも感じさせないで理子（迷つてる時に聞いた。峰 理子って言ひりしき）が飯をくっていた・・

・・

・・・両手にスプーン・・・髪に一本のフォークを持って・・・

ゴシゴシ（皿をこする音）
ぐにゃー（ぱっぺをつなぐ音）

・・・・うん夢じゃない

あるえ～？俺の常識がまちかってるのか？確かに人って髪を手みたいにクネクネ動かすこと出来ないとおもったんだが・・・・これはスルーしたほうがいいのか？・・・・うん・・・・これはスルーしよう・・・・・

「んで、なんであんな所でボロボロでたおれてたんだ？」

髪の毛のことはスルーすることを誓つた俺が話をきりだすと、ガツガツくつていた手と髪？を止めて、真剣な顔になり語り始めた。

「逃げてきたんだ・・・アイツから・・・」

「逃げてきた？」

「・・・うん」

話を聞くと驚くことに理子は怪盗リュパンの曾孫で幼い頃に両親を亡くしてしまいました。そこに田をつけたブラドットという吸血鬼（吸血鬼って実在すんのかよ！と思つたが聞ける雰囲気じゃなかつたから聞かなかつた）がリュパン家の力を求めて無理やり養子にしたらしい。

でも、その才能が全く開花せず痺れを切らしたブラドは理子を五世を産む道具として扱つようになつたらしく。

その後は監禁され毎日のように暴力をふるわれ人間としてあつかわれなかつたそうだ・・・

正直言つて俺には初めて全く理解できなかつた。元の世界にもそういうことがあるのはしってたけど、俺には全く関係のない世界だから・・・

だから俺は

「やつか」

と一言だけいった。
やつこのことしかできなかつた・・・

ほんの一週間前までのんびり大学生活をおくっていた俺には、励ます言葉も出てこなかつたし、同情する資格もないとおもつたから・・・。

side 理子

私はなぜか自分のことを田の前にいる男に包み隠さず話していく。
そんな事する必要まつたくないのに・・・
気づいたらリュパン家が両親が死んだあと没落したことや、ブライダルのことなど、いろんなことを吐き出していた。

最初は「ヨイシモリュパン家を話を聞いたり田の色変えだらう」と思っていたら、全然そんなことなかつた。

私の話を聞き終わると「やうが」と一言だけいった。

一見冷たいように見えるけど、私はその一言が嬉しかった。

今まで会つてきた奴らはみんな私を四世としか見てこなかつた。でも「ライツはそんな目で見ない。

子供の私には目を見ただけで相手の心の奥底なんてわからない。ほんとはここいつも私を利用しようと思つてゐるかも知れない。

けど・・・なんとなく違つ氣がした・・・ほんとにただなんとなく・
・

口をはむことも、励ますこともせずライツはただずっと側で話を聞いてるだけだった。

そのことが私の気持ちを軽くした。

励まされてたりしたら私は「お前になにがわかるつーー」ってキレてたかもしれないから・・・

そのせいだらうか、少しくらいライツ 黒川 タ を信用してもい

ことおもつたのな。

side out

2話（後書き）

シリアルスッテ難しいですね。
こんなでいいのか激しく不安

短いですが・・・

理子の話が終わり、俺も何を話していいのか分からず、俺達の間には氣まずい雰囲気がただよっていた。

すると、ふと俺は店の外から視線を感じることに気がついた。

・・・数は一人、いや二匹か？

「おー、一匹いるだろ？」

「えー、どうして？」

「どうしてもだ」

そう言つと理子は不満そうな顔で「まだ残ってるの・・・」とまたやきつて足元に店をでた俺について来た。

その後、なんで店を出たのかしつこく聞いてくる理子を軽くあしら

こいつ、森へと向かい、背後の視線に軽く意識を向けた。

・・・ついて来るつてことは、やつぱり俺達を監視してゐみたいだ
な。

狙いは俺のわけないし・・・

やつぱ理子か・・・

そう考えた俺は素早くハーディスを取り出し

バンッバンッ

一発の弾丸を放つた。

「あやつー?」

「「わやつ」」

理子が軽く声を上げたのとは別に、一匹の獣の声が聞こえた。

・・・どうやら玉は一発とも命中したみたいだな。

「なにするんだ!!」

「ほれ、あれ見てみる。」

急に近くで発砲されてキレる理子に理由の説明もかねて、今当たた
獸を指差した。

「びつやからオオカミだつたらしい・・・

そこには2匹はあらうかでゆう綺麗な銀色の毛並みをしたオオカミ
が横たわっていた。

「あれは・・・ブランドの手下のオオカミだつ!!

くそっ!! アイツもう追つ手を出してきたのかつ!!!!」

理子がいうには、「イツは「ーカサスハクギンオオカミ」という種類
でブランドの手下らしい。

どうやらブランドには人間の手下という者がおらず、基本自分の手下
のオオカミに偵察や監視などを任せたそうだ。

じゃあなぜ、それを知つてお前は最初俺を殴つたし・・・
まあ、そんなこと考へてる余裕なんてなかつたんだろうけど・・・

なんか納得いかね——

「それじゃあ、早くこの町から出よ。どこか行くのであるのか?」

「あることにはあるんだけど……てつづいてくれるのか!?」

「まあな。俺もこれから何しようか迷ってた感じで、これも何かの縁だろうしな。それにこんな所に幼女おいてへんなところつまはね——よ。」

「そうか……ありがとう……つて、幼女つていうな!!」

顔を真っ赤にして俯いたと思つたら、いきなり怒り出す理子。それに驚きながらも俺は再び、何処へ行くつもりなのか聞いた。

「私はすぐにでも力をつけて強くならないといけないから……だから、とりあえずドイツにあるつていう『イ・ウー』っていう組織に行つてみようと思う。」

その組織は世界中から天武のオがあるやつらが集まって、技術を伝えあい最強を目指してゐる組織みたいなんだ。そこに行けば私もつよくなるとおもうから……」

「でも、その組織は國家機密レベルの組織らしくって、組織を知つてるだけでも身に危険がおよぶらしい……」
それでも、ついて来てくれる?」

「いゆうのは話す前に言えよ、と思つたが言わない方がいいんだろうなー

「もちろん、男に一言はねーよ。
そんなに大きな組織なら強い奴もいっぱいいるんだろ?
自分がどれほど通用するか試したいしな。」

「やつ……ありがと、『ユー』」

そつまうと理子は、出合つて初めて眩しい笑顔を見せてくれた。

3話（後書き）

理子がイ・ウーのことをなぜか知ってるのも「都合主義」です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6627z/>

緋弾のアリア イ・ウーの時の番人

2011年12月25日13時46分発行